

「音楽の力」

お付き合いをしまして、かれこれ40年近くになるでしょうか。

最初に音楽というものを意識して聴くようになったのは、小学生四年生の時です。担任の先生から当時始まったNHKの「世界の音楽」という立川澄人さんと黒柳徹子さんが司会をしていた音楽番組を見るように言われて、一生懸命視聴しました。見ていないとクラスの話についていけないような雰囲気があったことを覚えています。

それからレコードプレーヤーで、音楽なるものを聴くようになり、中学生になると親のすねを大きくかじってステレオセットをそろえ、レコードも小遣いで毎月買い増していきました。

中学・高校のころは、当時の若者に流行していたフォークソングやロックミュージックばかり聴いていました。中学二年生の時に最初に行ったコンサートは井上陽水でしたし、矢沢永吉率いる全盛期のキャロルや洋楽ではサンタナのコンサートなどにも出かけました。

音楽の趣味も年齢や周辺環境とともに変化していくのか、大音量でハードロックやプログレッシブロックばかりを聴いていた私が、社会人になるとジャズ一辺倒となり、今では、^{もっぱ}専らクラシック音楽で、それも落ち着いた室内楽・器楽曲を中心に聴いています。

聴きたい音楽というのは、その時々の方々の身体が求めるもののようにも思います。だから、TPOに合わせて、好きな音楽、聴きたい音楽を聴くことは、身体にも良いことなのでしょう。今日では、様々な音楽療法が医療行為の補完的なものとして実践されていることがそれを証明しています。

私のマニフェストに「芸術と文化のまち・高松」を目指して「音楽イベントなどを支援し、楽しいまちづくりを進めます」とあります。「高松まちうたプロジェクト」も順調に進んでいるようです。また、平成22年3月には、第二回高松国際ピアノコンクールの開催が予定されています。さらに市民のみなさんから、今後、実施したいという様々な音楽イベントの企画もお寄せいただいています。

「音楽の力」でまちが元気になる。そうならば、音楽好きとしてこんなに嬉しいことはありません。